

令和4年6月越前町議会定例会

(第2日目)

令和4年6月9日

目 次

第2号（6月9日）

○出席議員及び欠席議員氏名	1
○会議録署名議員の氏名	2
○職務のために議場に出席した者の職氏名	2
○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	2
○議事日程	3
○開 議	4
○一般質問	4
木 村 繁 君	4
中 西 清 君	9
石 田 和 朗 君	11
○散 会	14

出席議員及び欠席議員氏名

議席番号	氏名	出席	欠席	摘要
1	小松 高宏	○		
2	時田 和一良	○		
3	吉田 憲行	○		
4	石田 和朗	○		
5	長谷川 眞恵	○		
6	中西 清	○		
7	高田 浩樹	○		
8	藤野 菊信	○		
9	米沢 康彦	○		
10	佐々木 一郎	○		
11	伊部 良美	○		
12	笠原 秀樹	○		
13	木村 繁	○		
14	北島 忠幸	○		

会議録署名議員の氏名

1 1 番議員	伊部 良美	1 3 番議員	木村 繁
---------	-------	---------	------

職務のために議場に出席した者の職氏名

事務局長	石田 和也	事務局次長	轟 久美子
事務局書記	安井 正樹		

地方自治法第 1 2 1 条により説明のため出席した者の職氏名

町 長	青柳 良彦	副 町 長	細井 秀之
教 育 長	出口 俊一	総務理事	杉本 恭伸
民生理事	山口 隆司	産業（兼）建設理事	水島 博之
会計管理者	友広 家延	教育委員会事務局長	菅原 辰彦

令和4年6月越前町議会定例会議事日程〔第2号〕

令和4年6月9日（木）

日程第 1 一般質問

開議 午前10時00分

- 議長（笠原秀樹君） おはようございます。
本会議2日目の会議を開会いたします。
ただいまの出席議員数は14人全員でございます。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。
議事日程につきましては、お手元に配付のとおりでございます。

日程第1 一般質問

- 議長（笠原秀樹君） 日程第1 昨日に引き続き、一般質問を行います。
本日は一括質問一括答弁方式での質問を行います。
13番、木村 繁君。
なお、木村 繁君から時間延長申請がありましたので、20分間の時間延長を許します。

13番（木村 繁君）登壇

- 13番（木村 繁君） 今、日本のプロスポーツ関係で、「怪物」と言われている方が4人いらっしゃいます。昭和の怪物、江川卓さん、平成の松坂大輔さん、そして一昨日、プロボクシングのモンスター井上尚弥選手、最後に、令和の怪物、ロッテの佐々木朗希投手、この4人が怪物と言われていることです。

特に、佐々木投手におかれましては皆さんご案内のとおり、先般、オリックス戦で打者27人に対して1本のヒットも1つのフォアボールも出さず、いわゆるパーフェクトピッチング、完全試合を若干二十歳の若者が達成をいたしました。そして、27人のうち19個の三振、三振奪取率70%、簡単に言いますと、打者10人に対して7人は三振をしたという計算になります。

私は思うんですけれども、我が愛するジャイアンツに、「たら」「れば」はあきませんけれども、佐々木投手が巨人にいれば、いたら違ったまたペナントレースが開催されているんじゃないかなというふうに思いまして、巨人に入らなかった、入れなかったということは、個人的に残念に思います。

それでは、議長のお許しを得ましたので、通告書に基づき一般質問をいたします。
初めに、若手職員の活動や取組みについてお伺いをいたします。

昨年11月に、県内で地域活動に取り組む若者を、各市町の40歳以下の若手職員がサポートする若者チャレンジ応援公務員の結成式が福井市で開催をされました。活動は、県の若手職員でつくるチャレンジ応援チームと連携をして、挑戦を支えていくそうです。

県では、昨年4月から若者支援に力を入れており、各市町にも取組みを広げようと応援公務員を募集しました。メンバーは、仕事の一環業務としてではなく、自主的な活動として相談を受けたり、地域で活躍する若者の情報を県と共有することです。この応援公務員には、11の市町の28人が登録をし、随時メンバーを募集していくそうです。

そこでお伺いをいたします。

本町からの参加状況や、参加している場合、どのような活動を期待するのか、参加していない場合、メンバー登録にどのように関わっていくのか、町長の所見をお聞かせください。

次に、関連になるかもしれませんが、昨年、南越前町で、若手・中堅職員が地域

おこしや住民の生活向上に関する施策を町長及び町幹部にプレゼンテーションする職員政策提案制度を導入したそうでもあります。

南越前町の一般行政職員は、昨年11月1日現在で122人おり、20代から30代が中心の主事・主査は77人、このうち55人が入庁10年未満の若手職員で、自分たちが町の将来を背負って立つという思いを強くしてほしいと、若手・中堅によるプレゼンの機会を設けたとお聞きをしております。

健康づくり、子育て支援、高齢者の生活支援の3つのテーマで募集をしたところ、20組36人から計27事業の提案があり、地域通貨「南えちじえん」の導入、2週間かけて町内一周分の約56キロを歩く「ぐるっと山海里ウォーキング」、おむつの無料提供サービスなど、バラエティーに富んだアイデアが寄せられたそうでもあります。

なお、優秀な提案は、今年度の町の施策として採用されるそうでもあります。採用された職員さんにとっては通常業務とは違った達成感、また、採用されなかった職員の人には今後の大きな糧になるはずであります。

役場に限らず様々な分野で仕事をしている若手職員は、ややもすると上司の指示を待ち、指示された仕事をこなす受け身の姿勢になりがちですが、自ら調べて、考えて、伝えることで力がついていくというふうに言われております。このプレゼンは、若手職員のやる気、能力を引き出しただけでなく、ベテランの職員の方にも大いに刺激を与えたというような相乗効果もあったそうでもあります。

そこでお伺いをいたします。

若手職員の育成という観点から、今後の越前町を担っていく若手職員の政策プレゼンに対する町長の所見をお伺いいたします。

次に、当町における医療費の助成についてお伺いをいたします。

当町においても、医療費の抑制や町民の健康意識の向上に向けた特定健診、人間ドックの助成を行っていますが、国の施策である高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に伴い、県内のある市では、本年4月より、脳ドック助成事業を新設したとお聞きをしております。年齢は50歳から74歳を対象に、助成額の上限額2万4,000円、助成回数は3年に1回、受診予定者は70人を予定しているそうでもあります。

そこで、当町における適正な医療費維持を踏まえた年齢制限を設けない脳ドックの受診推進及び助成について、町長の所見を伺います。

次に、サニタリーボックスの設置についてお伺いをいたします。

近年、男性トイレにサニタリーボックス、簡単に言いますと汚物入れです、を設置してほしいとの声が高まっているそうです。前立腺がんなどの病気が原因で尿漏れ用のパッドなどを使用している人たちにとって、捨てる場所がなくて困っているという声があり、公共施設の男性トイレにサニタリーボックスを設置しようとする動きを始めた自治体があるそうでもあります。

公共トイレの環境改善活動を行う一般社団法人日本トイレ協会では、本年2月、インターネット上で男性トイレのサニタリーボックス設備に関するアンケートを行いました。回答した男性360人のうち40人が尿漏れパッドやおむつなどを使用しており、その約7割の人から「トイレにサニタリーボックスがなくて困ったという経験がある」との回答があったそうです。

同協会では、パッドが必要な男性は少数派かもしれませんが、多様性を尊重する社会の実現に向けて、男性トイレのサニタリーボックスの設置を考えてほしいという声を上げています。

そこで、町内の公共施設の男性トイレのサンタリーボックスの設置状況について、担当理事の見解をお伺いします。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

町長（青柳良彦君） 登壇

○町長（青柳良彦君） それでは、木村議員のご質問にお答えいたします。

初めに、若者チャレンジ応援公務員についてですが、現在、越前町からは2名の職員が参加しております。

若者チャレンジ応援公務員の活動は、「若者プレーヤー」と称した新しいことに挑戦しようとしている若者の人材の発掘や、若者プレーヤーからの相談に応じ、県の若手職員で構成する福井県チャレンジ応援チームと連携して、県・市町やメディアをつなぐハブとしての役割を担っております。そのほかにも、県のチャレンジ応援チームなどが開催するイベントや講演会などへの参加やメンバー同士がLINEなどで情報の共有も行っていると聞いております。

現在、越前町の若者からの応援依頼や相談はないとのことですが、今後、応援の輪が広がることにより、若者も夢に向かって挑戦しやすくなり、活動も活発になることを期待します。若者が地域で活発に活動することで町がにぎわい、町内の地域振興の活力にもつながるものと考えます。

次に、若手・中堅職員の政策提案制度についてですが、越前町でも、昨年8月に三役との意見交換を行い、若手・中堅職員からの提案の場を設けました。提案者は、主事・主査職員13名と地域おこし協力隊員1名、計14名が2名ずつ7班に分かれ、それぞれがテーマと具体的施策のプレゼンテーションを行いました。

内容は、AIチャットボットの導入やオンライン申請の推進を図る、AIを活用した行政窓口、クラウドファンディングにより資金を募り、キャンプ場を整備する地域再生プロジェクト、ヤギの放牧による耕作放棄地の除草事業など様々な事業の提案や、人材発掘の一環として町職員の採用試験を東京で行うことやテレワークやフレックスタイム制の導入、女性職員の制服導入など、職場環境への提案もありました。グループごとに多種多様な観点から斬新な提案もあり、速やかに実施できる施策や今後検討を加えた上で実施可能な施策が発表され、大変意義ある場となりました。

提案のあった施策は、各担当課におきまして事業内容の検討を行い、女性職員の制服導入に関するアンケートを実施したほか、チャットボットの導入や東京での職員採用試験の経費を予算化するなど対応しております。今年度の政策提案は、趣向を変えて、20代、30代の主事・主査級職員80名から参加者を募り、マスコミ等にも周知してプレゼンテーションを実施したいと考えております。

町といたしましては、今後も研修会などを通じて職員の政策スキルの向上を図り、また、様々な場面において提案の機会を設け、新しいアイデアを町政に反映させていきたいと考えております。

次に、脳ドックへの助成についてお答えいたします。

脳ドックは、主にMRIやMR血管撮影による画像診断と脳機能に関する検査を行い、脳の健康状態を評価するもので、一般的に3万円から5万円程度の費用が必要となります。自治体による助成制度もありますが、内容はそれぞれ異なっております。

県内市町の状況を申し上げますと、14市町が国民健康保険被保険者の脳ドック費用に対し助成を行っておりますが、助成枠については5人から70人まで、助成金額については1万円から3万6,500円までと、市町間で大きな差があり

ます。

一方で、脳ドックの助成を行っている市町の多くは、後期高齢者医療被保険者の人間ドック費用への助成を行っていないか、もしくは令和4年度から廃止しております。これは、国による高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施により、加齢に伴う虚弱な状態、いわゆるフレイル状態への予防など、介護予防に重点を置いた取組みが強化されていることや県後期高齢者医療広域連合が令和4年度から後期高齢者医療での人間ドック補助を廃止したことなどによるものだと考えられます。

越前町では、30歳以上の国民健康保険被保険者と75歳以上の後期高齢者医療被保険者の人間ドック費用に対して、年に1回の受診を限度とし、2万8,000円の助成を行っており、令和3年度の実績は、国民健康保険被保険者が179人、後期高齢者医療被保険者が19人受診されており、総額で552万9,000円の助成を行っております。

また、後期高齢者医療被保険者の人間ドック費用への助成については、町民からの要望もあり、令和4年度も継続しております。医療費の増加などにより、国民健康保険は厳しい財政状況にあります。また、団塊の世代が75歳以上になる2025年問題などが加わり、後期高齢者医療も今後の厳しい運営が予想されています。

越前町といたしましては、様々な施策を講じて医療費抑制を図っていく中で、今までどおり人間ドックの受診を推進してまいります。新たに脳ドックの助成を行う場合、それに伴う財源が必要となることから、他市町の事例も参考に、他の保健事業の見直しを図るなど、財源の確保に努めて検討を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（笠原秀樹君） 民生理事。

○民生理事（山口隆司君） それでは、次に、サニタリーボックスの設置状況についてお答えいたします。

本町における公共施設において、男性トイレにサニタリーボックスを設置している施設はございません。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 木村 繁君。

○13番（木村 繁君） ありがとうございます。

そこで、再質問という形になるかと思いますが、町内の施設において男性トイレのサニタリーボックス設置について、町長の所見をお伺いします。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） お答えいたします。

男性用トイレのサニタリーボックス設置につきましては、尿漏れパッド等の捨て場に困る悩みに応えるべく、主に自治体や商業施設の男性トイレに設置する動きが出始めております。

尿漏れの主な原因は、過活動膀胱や前立腺肥大症とされています。日本排尿機能学会の推定では、過活動膀胱の患者は約810万人、前立腺肥大症は約480万人とされており、特に中高年層の患者が占めています。厚生労働省の平成25年国民生活基礎調査では、65歳以上の男性46.4%が「尿漏れの症状がある」と回答しています。

また、国立がん研究センターの統計によると、平成30年に膀胱がんと診断された男性は、全国で1万7,555人となっています。手術により人口膀胱を増設

し、ストーマ、いわゆる蓄尿袋を挿入している方々は、外出先に汚物処理用ごみ箱が設置されていないことがほとんどであるため、ストーマを自宅に持ち帰って廃棄処分している状況です。また、ストーマ装着用のオストメイト対応トイレ設置も公共・民間施設においてまだまだ少ない状況にあり、こういった方々は外出時に大変苦慮されているようでございます。

尿漏れのある男性からは「汚れたパッドを持ち歩くのが嫌で家を出るのがおっくうになることがある」といった声が多く聞かれます。ある男性は、外出中は捨てる場所が見当たらず、使用済みのパッドはバッグに入れて持ち帰るとのことで、「恥ずかしさもあり尋ねにくい。同じように悩んでいる男性がいるはず」と、男性トイレにサニタリーボックスの設置を求める声が高まっています。

町といたしましては、公共施設や観光施設等の男性トイレへのサニタリーボックスの設置について、施設の利用状況及び利用者の年齢層等を考慮し、必要性の高い施設から順次導入を進めていきたいと考えております。

なお、導入に当たりましては、トイレの定期的な巡回や汚物処理上の感染予防などの管理が行えるよう、衛生面の条件を整えた上で実施していきたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

○議長（笠原秀樹君） 木村 繁君。

○13番（木村 繁君） 前向きなご答弁をいただきました。ありがとうございます。

そこで、質問というわけではないんですけども、いろいろ感じるがございますので、今しばらく時間をいただきたいと思っております。

先ほど町長の答弁にありました、いわゆる職員提案制度、今年は東京での職員採用試験の経費を予算化しているという答弁がございました。私は初めて知ったんですけども、このことについては、町の採用試験を東京でやる。先ほどおっしゃったとおり、人材発掘はもちろんですけれども、ひょっとすると我がまち越前町への移住につながるかもしれません。的確な提案であり、予算化されたことについては、私も賛成をいたしたいと思っております。

そして、今年度の政策提案は、20代・30代の主事・主査級の職員の80名から参加者を募って、マスコミ等にも周知徹底をして、プレゼンを実施したいというご答弁がありました。さすがだなというふうに個人的には思います。このプレゼンをマスコミ等にお渡しをして行うということについては、非常に職員のやる気が出て、知恵、アイデア等がより一層高まっていくんでないかなというふうに考えますので、ぜひとも実行をしていただきたいというふうにお願いをしておきます。

それから、2番目、3番目の脳ドック、サニタリーボックスの質問ですけども、このことは、ある趣味の会合やスポーツ大会等を通じて、地域住民から伺った、いわゆる少数かもしれませんが住民の生の声であるということだけお伝えをさせていただくと同時に、やはり住民の生の声ですから、ぜひとも実施に向けて検討をしていただきたいというふうに思います。

先般の月例会の折に、民生部門から越前町の高齢者世帯の資料を頂きました。我が町の令和3年度では、65歳以上の親族のいる世帯が4,810世帯、総世帯の66.3%に当たり、高齢者の単身世帯が1,225世帯、パーセントにしますと16.9%。また、高齢夫婦世帯が785世帯、10.8%となっているということで、いかに我が町も高齢者世帯であったり人員であったり増えているということが認識されるわけですけども、私も今年、古希になりました。70歳というとちょっと抵抗があるので、古希と言っているんですけども、古希にな

って、いわゆる老後の心配をする年になってきました。

ですから、今ほどの脳ドック、サニタリーボックスについては、こういった心配をされている方からの声ですので、繰り返しになりますが、ぜひともお願いをしたいというふうに思います。

私も含めて高齢者というのは、高齢者が元気になるのは選挙のある年と、ちょっとアルコールの入った会合等が元気になる源と言われていますが、今年、参議院選挙があります。年が明けると統一地方選挙があります。来年の春までは、私を含めた高齢者は、選挙があるんで元気でいるだろうというふうに思いますけれども、ぜひともそういった点も、それが終わりますと途端に元気がなくなります。ということも含めて、今ほどの質問でお願いをしたことについては、ぜひとも実行に移すことをお願いを申し上げまして、私の一般質問を終わります。

○議長（笠原秀樹君） これで木村 繁君の一般質問を終わります。

次に、6番、中西 清君。

6番（中西 清君）登壇

○6番（中西 清君） 議長のお許しをいただきまして、通告書に基づいて質問いたします。

子育て支援充実について。

町の人口減少抑制のために、子育て世帯の定住化と少子化対策が大きな課題と言えます。町長も、子育て支援について、スピード感を持って制度設計を行いたいと表明しています。

越前町の多くの施策は、国や県の支援金の範囲にとどまっており、他市町に先行する魅力的な施策はほとんどありません。工夫して財源を確保していただき、子育て世帯が生まれ育った町で安心して暮らせる、あるいは越前町で子育てしたいと期待できる経済的な支援、環境づくりが大切ではないでしょうか。このことを踏まえて質問いたします。

国民健康保険の均等割の子ども分の免除について、町民から国民健康保険税が高いと不満の声が多く寄せられています。加入者の多くは個人事業者と年金受給者で、子育て世帯は社会保険加入者がほとんどと考えられています。社会保険の2分の1は事業者が負担し、扶養者が何人いても保険料はほとんど変わりません。社会保険料を試算してみると、国民健康保険税は均等割と平等割分程度が健康保険料を上回ります。

特別会計の収支が黒字でも、税額は上がる一方です。将来の医療費に備えていることは理解できますが、均等割、特に子ども分の免除についてぜひ検討していただきたい。コロナ感染に伴う受診控えによる医療費の減少、国民健康保険税の年金からの徴収、増収も見込まれ、次回の改定に当たっては前向きな検討をお願いいたします。

また、県の子育て支援事業に対する事業計画について、県は、子育て支援の一環として、全天候型の遊び場整備への大幅な支援拡充のため、5年間で17市町へそれぞれ1億円を支援することを決めました。この支援策に遊び場以外の子育て支援事業も含まれるのか、具体的な内容について説明をお願いします。また、町の検討状況、事業計画が提出済みな場合は、その内容についてお伺いします。

お願いします。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

町長（青柳良彦君）登壇

○町長（青柳良彦君） それでは、中西議員のご質問にお答えいたします。

まず、最初の質問であります国民健康保険税の均等割子ども分の免除についてお答えいたします。

国民健康保険税は、加入者の所得による負担能力や保険給付などの受益に応じて課せられ、加入者数や医療費などの推移を勘案して税率を定めることになっております。賦課方式は、所得割、被保険者均等割、世帯別平等割の3方式となっております。県によりますと、令和2年度の市町別1人当たりの年額保険税は、越前町は10万5,991円で、県内では永平寺町、福井市に次いで3番目に高くなっています。

国民健康保険税均等割額の子ども分については、国が進める子ども・子育て支援の一つである子どもに係る国民健康保険料等の減額措置を実現するため、地方税法が改正されたことに伴い、越前町においても3月定例議会におきまして6歳以下の未就学児に係る国民健康保険税の均等割額を5割減額するための条例改正を行い、既に本年4月1日から適用されていますが、7歳から18歳未満の被保険者については対象となっております。

令和4年3月末時点で、18歳未満の国民健康保険被保険者数のうち、6歳以下の未就学児が63人、7歳から18歳未満が177人おり、6歳以下の未就学児被保険者に係る5割の軽減措置では約100万円の減収となりますが、国が2分の1、県が4分の1を負担し、残り4分の1についても交付税により補填されるため、実質的な減収とはなりません。

しかし、全額免除した場合には、国・県負担のない約100万円が減収となり、さらに7歳から18歳未満の被保険者に係る軽減措置を講じた場合には、5割軽減で約280万円、全額免除で約560万円の減収となります。これらにつきましては、町独自の措置となるため、国や県からの補填を見込むことはできません。

越前町の平成29年度から令和3年度まで5か年の国民健康保険会計の財政状況を見ますと、歳入が歳出を上回ってはおりますが、税率の改正や一般会計からの繰入れも行っており、決して安定した状況とは言えません。

今後、加入者の減少や1人当たりの医療費の増加などにより、厳しい財政運営が予想されることや県の国民健康保険運営方針において、将来的には県内市町の保険料水準の統一を目指すことが示されていることも考慮し、新たに越前町独自に保険料均等割額の子ども分について全額免除を行うことにつきましては、現時点では考えておりません。

町といたしましては、今後も、国民健康保険の健全で安定的な財政運営を行うため、医療費の適正化対策、加入者の負担を考慮した税率の見直し、収納対策などに取り組んでまいりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

次に、県の子どもの遊び場整備事業の内容についてご説明いたします

県の要綱によりますと、この事業は、天候にかかわらず子どもたちが安心して遊ぶことができる遊び場づくりを促進し、心身ともに健やかな子どもの育ちを支援することを目的としたもので、全天候型の遊び場整備に対する補助事業でございます。

実施主体は市町、補助基準額は1市町当たり上限1億円、補助率は100%、事業期間は令和4年度から令和8年度の5年間の予定です。補助対象経費は、遊び場の整備に必要な経費で、子どもの成長に配慮した遊具等の設置が必要です。子どもとは、おおむね3歳から12歳までのものとしています。土地の取得費や造成費、既存施設の解体撤去費、ソフト事業費は補助対象から外れます。

そのほか要件として、遊び場は無料で使用でき、営利目的で運営されるものでは

ないこと、ただし、維持管理費の徴収は可としています。また、遊び場は土曜日、日曜日の両日を含め、週3日以上開所すること、子どもたちが天候にかかわらず安全・安心に遊ぶことができる遊び場の面積が確保されていることとなっております。

県は、市町と共同して全県的に整備を進める考えを示しています。全天候型の遊び場は、雨や雪の日でも利用できるメリットはございますが、大規模施設が想定され、莫大な建設経費や整備後の維持管理経費が見込まれますので、慎重に検討する必要があります。補助金が上限1億円、補助率も100%と大変有利な事業であることから、子育て世代のニーズ等を踏まえ、既存施設の有効利用も含め、当町でも検討してまいりたいと思います。

○議長（笠原秀樹君） 中西 清君。

○6番（中西 清君） ただいま町長さんの答弁をお聞きしましたけれども、国民健康保険税、63人で、5割で100万円です。子育て支援という考え方からすれば、十分に手当てすれば成り立つと思うんですけれども、一応私は18歳未満の子ども全員にお願いしたいと思いますけれども、国や県からは、今は6歳未満かもしれないけれども、だんだん少しずつ上がっていくと思います、補助率はね。それを越前町が先行して、他町村に誇れるような町にしていくためには、財源を確保して増やしてほしいなと私は思っています。そういうことで、ひとつそのことはお願いしたいと思います。

次の全天候型の遊び場についてですけれども、越前町にはサブコミュニティがありまして、老朽化しています。場所的には、空間としては十二分にありますので、そういう面も含めて検討できないでしょうか。よろしくをお願いします。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） 先ほど、答弁の中にもございましたとおり、既存の施設の有効利用も含めて検討していきたいと思っておりますので、個別具体的にどこをどうするということはまだ決まっておられませんので、ここでの答えはできない、差し控えさせていただきます。よろしくをお願いします。

○議長（笠原秀樹君） 中西 清君。

○6番（中西 清君） ありがとうございます。これで終わります。

○議長（笠原秀樹君） これで中西 清君の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩をいたします。

11時に再開いたしますので、時間までにお集まりください。

休憩 午前10時47分

再開 午前10時58分

○議長（笠原秀樹君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、4番、石田和朗君。

なお、石田和朗君の一般質問は、着座にての質問を許可します。

4番（石田和朗君） 登壇

○4番（石田和朗君） 座っての質問の機会を与えてくださった議長さん、町長さん、理

事者、議員の皆さんへ深くお礼申し上げます。

突然襲いかかった脊髄梗塞という病魔と闘いながら、約半年経過しました。おかげさまで、杖は使っていますけれども歩行可能になりまして、この席へ着座させていただけることが幸せに感じております。

さて、私の質問は、悠久ロマンの杜の振興対策について。

悠久ロマンの杜の今の現状についてですが、先日、5月中旬の晴れた日に、ふと思い立って四ッ杉から自家用車で、悠久ロマンの杜をかなり以前の記憶をたどりながらゆっくりゆっくり登りました。

最初に、私が大学生の夏休み中、友人と誘い合わせてアルバイトで森林の下刈り作業をしたことがある場所、喰付熊、いわゆるキャンプ場です。看板には「四季の森」と書いてあって、針葉樹や紅葉、溪流がきれいで和ませ、周辺には多くのフィールドアスレチックが設置されていて、子どもたちを楽しませるエリアでした。その昔、二、三十年前の夏休み期間、どこの大学だったか、サークルの皆さんが飯ごう炊飯やテント張りやキャンプファイア設営、フォークダンスの指導などをして、たくさんの少年少女の思い出づくりをしてくれたことを覚えています。

先を進み、エボシ山の三差路、銀杏峰を右折して、少し下った場所にスーパースライダーのステーションがありました。車から降りて看板を見ると、「豪雪のため当分の間休業します」と書いてありました。近く撤去する予定と聞いていますが、それにしても周りは雑木が生い茂り、栄枯盛衰の体でした。近くには、かわいい滑り台やパターゴルフが楽しめる場所があったのですが、そこも草ぼうぼうでした。

それから下のほうへ進み、エアコンがずっと故障中と言われている県民もりの学び舎を眺め見て、やっと悠久ロマンの杜というか、朋楽の里にたどり着き、一服しました。茅葺き屋根の工事があったので、それを眺めていました。

それから少しまた下ったところで、旧萩野小学校笈松分校で一旦停車、藤岡陽子先生の小説で、増永眼鏡の創成期の物語、機屋から眼鏡屋への転業までの喜怒哀楽があり、浅水地区の大土呂、文殊山とかの地名、そして越前町かいわいでは、春先の積もっている雪の表面が少し溶けて、早朝の冷たく、急冷、しみ渡っていることをシミと言いますが、足羽地区ではおしよりんと言って、題材になった映画「おしよりん」の撮影現場です。将来、ひょっとしてレガシー化して、多くのファンが詰めかけるかもしれない校舎を眺めて、思いをはせました。

それは、町長が映画「おしよりん」の撮影時に、スタッフの皆さんのところへ出向いたこと、町の特産品の越前焼をプレゼント、タケノコ弁当や揚げ出し豆腐の差し入れ、こうして喜ばれたことなどが大々的に報道され、新聞に取り上げられました。私は、青柳町長は、里山のことも見捨てていなく、理解しているんだなと思いました。そういう意味で思いをはせたわけでございます。

不遜ですが、失礼なことなんですけれども、小説の中身には無縁の場所、萩野小学校笈松分校、現在の形姿はほとんど廃屋なのに、何ゆえ所ジョージのダーツの矢が刺さる番組みたいに射られたのか。詮索はともかく、一流の監督、カメラ、俳優やスタッフの総力を挙げての作品は、日本中の映画館でいずれ鑑賞されます。その撮影場所の上映シーンは30秒、何分かでしょうけれども、風景が私は楽しみです。

しかし、聞くところによると、笈松ですけれども、集落の住民にて辛うじて維持管理されてきたその建物や周辺が限界状態で、存続させることが無理で、近く取り壊すとか。北陸新幹線誘致関係で、自分なりの言葉で言うと「誘客大作戦」を

模索中の越前町は、ピンチをチャンスと考えるならば、観光施設として悠久ロマンの杜への通り道筋にある萩野小学校箕松分校校舎を何らかの形で残しておいたほうがよいと私は思います。

そこで、今後の整備、維持管理についてお伺いいたします。

近く悠久ロマンの杜の周辺を整備して、誘客対策を模索していると聞きます。茅葺き屋根のそば屋、茅葺きの宿、ログハウスコテージの修復・修繕、新たに北陸新幹線福井県開業に当たって、誘客対策の一環として、ドッグラン、バーベキュー、子ども広場などの拡充計画をしているとのことですが、良い方向で進め、誘客対策がうまく展開されることを期待するものですが、肝心なことから始めなければ前進はおぼつかないと思います。

まずはアクセス対策、狭過ぎる集落内での車の対向通行困難箇所の拡幅整備もしくは入尾トンネルから現地へのバイパス建設の必要性、そして、何より悠久ロマンの杜に来ていただいた来客へのおもてなし、山や谷や清流、空気もまた、それらは一層のごちそうと私は思っています。

顧客満足度のため、美観の保持、今後の整備や維持管理体制をどのように考えているのか、町長のご所見をお伺いいたします。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

町長（青柳良彦君） 登壇

○町長（青柳良彦君） それでは、石田議員のご質問にお答えいたします。

悠久ロマンの杜へのアクセス道路についてですが、悠久ロマンの杜に通じる1級町道沖田箕松線は、県道福井大森河野線の赤井谷地係から山田区、入尾区、箕松区、そして悠久ロマンの杜を経て、広域基幹林道西部3号線へと通じる道路で、地域の皆様の生活道路として、また悠久ロマンの杜や越知山、六所山等を訪れる観光客にとりましても、重要な観光アクセス道路として利用いただいております。

当路線は、狭隘な箇所や急カーブが多く、利便性や安全性に問題を抱えていたことから、平成27年度において越前町辺地総合整備計画を策定し、昨年までの7年間で、約1億4,000万円をかけ、当路線の改良整備と安全対策を行ってまいりました。おかげさまで、以前に比べますとかなりの改善が図られたのではないかと感じております。

しかしながら、議員ご指摘のとおり、集落内や悠久ロマンの杜までの一部の幅員が狭い点や水道施設、悠久ロマンの杜の宿泊施設等の老朽化、さらには悠久ロマンの杜全体の活性化など多くの課題が残っていることから、3月定例会におきまして議会のご議決をいただき、越前町辺地総合整備計画を5年間延長したところでございます。

令和6年春の北陸新幹線福井開業への期待が膨らむ中、令和5年中には国道417号の福井県と岐阜県の県境にある冠山峠トンネルが開通予定であり、越前町への観光誘客には絶好のチャンスを迎えようとしております。このチャンスを見逃さないためにも、入尾・箕松両区の住民の皆様の生活環境の改善を図るとともに、現地を訪れた方がスムーズに目的地に到着できるような道路の整備を進めていく必要があると考えております。

議員ご提案の入尾区越知隧道から悠久ロマンの杜に抜けるバイパスにつきましても、現在の交通量や冬期の除雪、整備費用などを考慮いたしますと、町といたしましては、まずは現道の側溝の蓋がけや舗装など、道路改良により整備してまいります。

次に、悠久ロマンの杜の今後の整備や美観保持、維持管理体制でございますが、

まず、今後の整備に関しましては、越前町辺地総合整備計画の中の悠久ロマンの杜活性化事業を基本とし、個々の具体的な内容につきましては、各年度の予算編成の中でお示ししてまいりますので、議会におきましてご審議賜りますようお願い申し上げます。

また、悠久ロマンの杜や周辺環境の美観保持と今後の維持管理体制でございますが、これまでも町道や広域基幹林道沿いなどは、町におきまして必要に応じて草刈りや清掃などを行い、通行の安全確保と環境美化に努めております。悠久ロマンの杜の周辺に関しましても、施設の指定管理者におきまして清掃美化に努めているところでございます。しかしながら、議員ご指摘のスーパースライダー施設やパターゴルフ場跡など、既に閉鎖した施設については順次撤去を進め、美観の保持に努めてまいります。

また、維持管理体制に関しましては、悠久ロマンの杜の指定管理契約に基づき、一般社団法人入尾・笈松活性化委員会に令和7年度末まで維持管理を行っていたこととしております。

町といたしましても、施設の維持管理や周辺の美化などにつきましては、指定管理者と連携を図り、取り組んでいくとともに、必要に応じて指導や助言を行ってまいりたいと考えております。

この悠久ロマンの杜や周辺の山間地帯は、緑に囲まれ、豊かな自然に恵まれております。その自然を求めて訪れる皆様が今後も快適に過ごしていただけるよう、環境美化や施設の維持管理に努めてまいりますので、議員におかれましてもご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（笠原秀樹君） 石田和朗君。

○4番（石田和朗君） 事前通告には申し上げなかったこともありまして、笈松分校の存続の検討につきましては、また後日伺いたいと思いますので、私の気持ちは先ほど伝えたとおりでございますので、ご検討よろしく申し上げます。

以上で、私の一般質問を終了いたします。ありがとうございました。

○議長（笠原秀樹君） これで石田和朗君の一般質問を終わります。

以上で、本日の日程は終了いたしました。

お諮りいたします。

本日の会議はこれで散会したいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（笠原秀樹君） 異議なしと認めます。

したがって、本日はこれで散会いたします。

なお、明日は午前10時から全員協議会を開催いたしますので、定刻までにお集まりください。

ご苦労さまでした。

散会 午前11時15分